



恵庭市公園のあり方等検討委員会 (第5回)

1

1. 第4回委員会の概要

- 日 時 令和6年11月19日（火） 14:00~16:30
- 場 所 恵庭市役所 本庁舎 3階 第2・第3委員会室
- 出席者（五十音順、敬称略）
 - 【委員】北林 優、栗原 和己、黒崎 暁子、小磯 修二（副委員長）、
椎野 亜紀夫（委員長）、東庄 儀幸、富永 一夫、平井 梓
 - 【オブザーバー】石川 啓貴[web]
 - 【事務局】恵庭市
- 議 事
 - （1）第3回委員会の概要
 - （2）試行・調査の中間報告
 - （3）今後のスケジュール
 - （4）第5回委員会の審議事項

2

2. 試行・調査の結果報告

- ①共通
 - ①-1 公園カルテの作成 (P7~9)
 - ①-2 公園の変化を通報するシステムの試行 (P10)
- ②公園利用者ニーズの多様化への対応
 - ②-1 公園ごとの人口動態、推計調査 (P14~16)
 - ②-2 公園ごとの周辺環境調査 (P17)
 - ②-3 モデル公園における利用ルール緩和の試行 (P18~25)
- ③管理運営の担い手拡大
 - ③-1 地域住民が主体となる組織の活動の現状調査 (P28~29)
 - ③-2 公園管理器具貸出制度創設の検討 (P30)
 - ③-3 ヒアリング型市場調査の実施 (P31~32)
 - ③-4 企業と地域のマッチング (P31~32)
- ④公園における安全・安心の確保(公園施設管理)
 - ④-1 地域と取組む公園樹管理の試行 (P35~38)
 - ④-2 アプリによる公園樹管理の試行 (P39)
 - ④-3 みどりのステーション制度 (P40)
 - ④-4 モデル公園におけるデザイン統一 (P41~42)
 - ④-5 SDGsやグリーンインフラへの対応 (P43~45)

2. 試行・調査の結果報告

- ⑤公園トイレの役割の見直し
 - ⑤-1 公園トイレの利用実態調査 (P48~49)
 - ⑤-2 公園トイレの改修効果の検証 (P50)
 - ⑤-3 公園トイレの必要性に関するアンケート調査 (P51~53)
 - ⑤-4 一時避難所のトイレの必要性検証 (P54~55)
 - ⑤-5 ネーミングライツに関する調査 (P56~58)
 - (補足調査) 近隣市のトイレ設置状況等の確認 (P59)

2. 試行・調査の結果報告

検討項目

① 共 通

1. 利用者ニーズの変化に
対応した公園運営のあり方

② 公園利用者ニーズ の多様化への対応

③ 管理運営の 担い手の拡大

2. 誰もが快適に過ごせる
公園管理のあり方

④ 公園における 安全・安心の確保 (公園施設管理)

⑤ 公園トイレの 役割の見直し

成 果

- ・日常データを核にDX化、継続運用が鍵
- ・LINE通報は休日時間外に強み有。運用実績も順調に増加

- ・画一管理から地域ニーズ対応へ転換
- ・小規模パイロットで検証を継続

- ・地域ごとに求められる公園像に応じて声を反映
- ・企業連携と器具貸出で担い手拡大

- ・目を増やし見守り強化、連携循環を拡大
- ・デザイン統一は方向転換、現実的継続策へ

- ・利用者の65%が不快、83%が廃止の検討に理解
- ・洋式化と通年開放要請あり、統廃合方針が必要

5

2. 試行・調査の結果報告

検討項目

① 共 通

1. 利用者ニーズの変化に
対応した公園運営のあり方

② 公園利用者ニーズ の多様化への対応

③ 管理運営の 担い手の拡大

2. 誰もが快適に過ごせる
公園管理のあり方

④ 公園における 安全・安心の確保 (公園施設管理)

⑤ 公園トイレの 役割の見直し

成 果

- ・日常データを核にDX化、継続運用が鍵
- ・LINE通報は休日時間外に強み有。運用実績も順調に増加

- ・画一管理から地域ニーズ対応へ転換
- ・小規模パイロットで検証を継続

- ・地域ごとに求められる公園像に応じて声を反映
- ・企業連携と器具貸出で担い手拡大

- ・目を増やし見守り強化、連携循環を拡大
- ・デザイン統一は方向転換、現実的継続策へ

- ・利用者の65%が不快、83%が廃止の検討に理解
- ・洋式化と通年開放要請あり、統廃合方針が必要

6

2. 試行・調査の結果報告

①-1 公園カルテの作成

(⇒生成AIを活用した公園DXへ派生)

■試行・調査の概要（公園カルテ）

- 病院のカルテに見立てて、公園の状況をカルテとして記録する仕組みづくりを試行。

■試行・調査の概要（公園生成AI）【追加】

- R7.9から、生成AIを活用して、公園の情報やお困りごとなどにAI（公園コンシェルジュ）が回答する仕組みの構築を開始。
- 生成AI事業については、協栄産業、指定管理者、恵庭市の3者でコンソーシアム協定を締結し、年度内に試作品を実装予定。
- 本事業は北海道の「デジタルチャレンジ推進事業」の交付金を活用した取り組み。

2. 試行・調査の結果報告

■結果報告（公園カルテ）

データベース
公園カルテ

詳細

公園番号	1
公園名	ことぶき公園
公園種別	街区公園
住所	豊松寿町1丁目13
面積	479
専有面積	310
専有業者	美化活動
管理棟	無
公衆便所	無
花壇・樹立例	無
水飲み台	無
園灯	1基
砂場	無
遊山	無
風鈴数	4
遊具数	4
駐輪場	無
駐車場	無
外観	外観石
冬季雪入対象	対象外
占拠	-
イベント	-
メモ	-

←実際の公園カルテ運用ページ（salesforce）

- ・市内すべての公園緑地についてベースを作成。
- ・市と指定管理者の両方で編集、共有可能。
- ・これまでExcelで作成していた“苦情処理簿”についても、生成AIのデータセットに活用するため、salesforce内に移行中。
- ・日々の維持管理作業記録についても、カルテのページに紐づけられるように調整中。
- ・その他、公園の情報をどんどん追加して、最終的には「公園カルテを見ればその公園のことは何でもわかる」状態を目指して、改良を続けていきたい。
- ・今年度、まずは生成AIのデータセットに関連する情報を随時追加していく予定。

2. 試行・調査の結果報告

①共通 { ①-1 公園カルテの作成 (⇒生成AIを活用した公園DXへ派生) } { ①-2 公園の変化を通報するシステムの試行 }

■提言に向けた整理 (公園カルテ⇒公園DX)

- ・公園カルテについては、情報を増やしていくことで多くの課題を解決できる可能性がある。
- ・これをいかにして維持・継続・改良していくかが直近の課題。
- ・公園生成AIについては、全国的に見ても例のない先進的な取り組み。
- ・閉庁日や早朝、深夜の問合せ対応の実現に繋がることや、その手軽さなどから、市民サービス向上に大きく貢献するもの。
- ・100以上の公園の細部情報を機械的に吐きだせることで、担当職員の負担が大きく軽減される。
- ・使い方を変えると、過去の苦情処理簿の情報などもAI回答として吐き出せる可能性があるため管理目的や市担当引継ぎにも…。

2. 試行・調査の結果報告

①共通 { ①-1 公園カルテの作成 (⇒生成AIを活用した公園DXへ派生) } { ①-2 公園の変化を通報するシステムの試行 }

■提言に向けた整理 (公園の変化を通報するシステムの試行)

- ・通報の半数以上は休日・時間外であった。
- ・大人（LINE通報を利用する年齢層）が公園を利用するのは圧倒的に休日が多いため、公園の特性とマッチしている。
- ・休日や時間外に気軽に通報できる仕組みの必要性あり。
（そうでないと、わざわざ通報しない人が大半である。）
- ・LINE通報だからこそ吸い上げられた情報もあった。
（例：いたずらによる深夜のガスボンベ爆発）
- ・試験的に“通報に対して返答しない”ことをベースに運用したが、特段トラブルは発生しなかった。（必要に応じて数件返答した）
- ・LINEを頻繁に利用する年齢層（子育て世代）と公園の相性も◎。

2. 試行・調査の結果報告

検討項目

① 共通

1. 利用者ニーズの変化に
対応した公園運営のあり方

② 公園利用者ニーズ の多様化への対応

③ 管理運営の 担い手の拡大

2. 誰もが快適に過ごせる
公園管理のあり方

④ 公園における 安全・安心の確保 (公園施設管理)

⑤ 公園トイレの 役割の見直し

成果

- ・日常データを核にDX化、継続運用が鍵
- ・LINE通報は休日時間外に強み有。運用実績も順調に増加

- ・画一管理から地域ニーズ対応へ転換
- ・小規模パイロットで検証を継続

- ・地域ごとに求められる公園像に応じて声を反映
- ・企業連携と器具貸出で担い手拡大

- ・目を増やし見守り強化、連携循環を拡大
- ・デザイン統一は方向転換、現実的継続策へ

- ・利用者の65%が不快、83%が廃止の検討に理解
- ・洋式化と通年開放要請あり、統廃合方針が必要

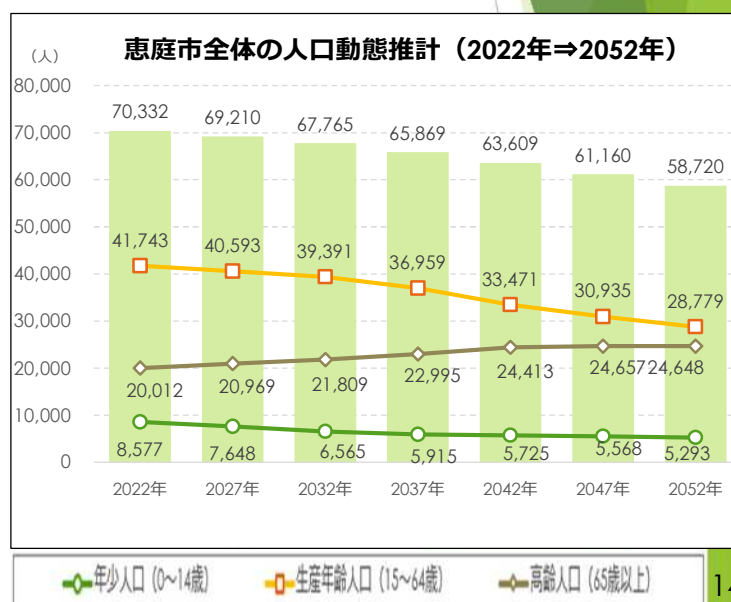
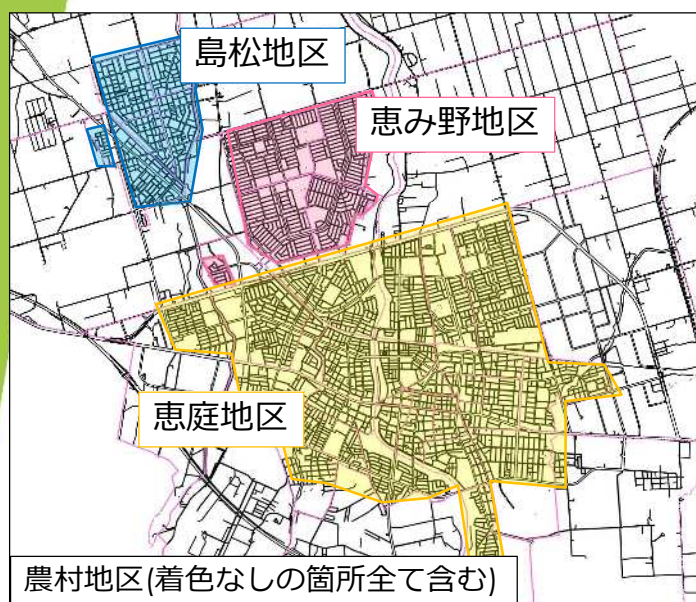
13

2. 試行・調査の結果報告

②-1 公園ごとの人口動態・推計調査

■ 試行・調査の概要

- 恵庭市人口ビジョン2019(R4.9人口データ)を活用して、各地区ごとの人口動態および推計値を調査。
- 恵庭地区、恵み野地区、島松地区、農村地区の4つの区域で大別。

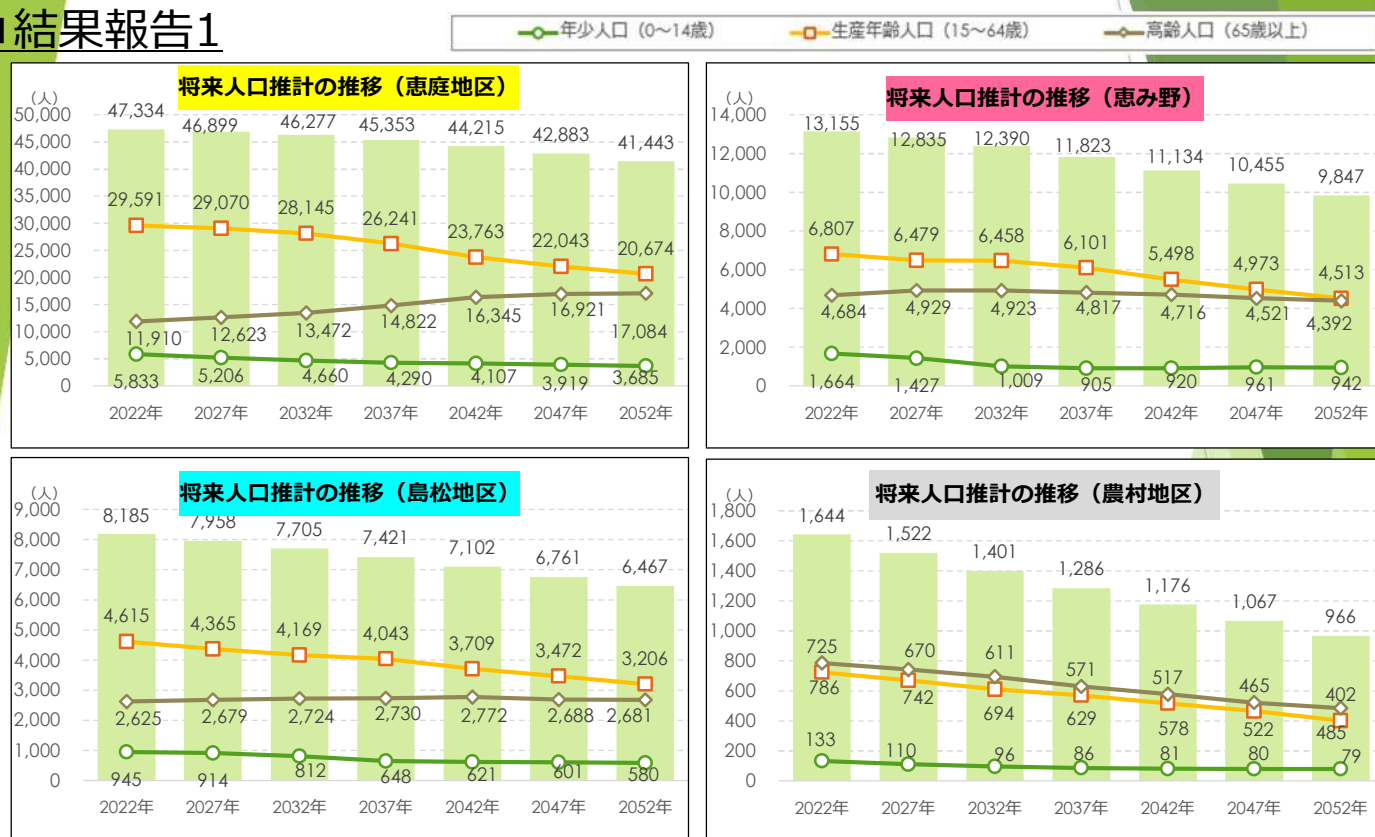


14

2. 試行・調査の結果報告

②-1 公園ごとの人口動態・推計調査

■結果報告1



15

2. 試行・調査の結果報告

②-1 公園ごとの人口動態・推計調査

■結果報告2

- 恵庭地区、島松地区については年少人口(0~14歳)と生産年齢人口(15~64歳)が減り、高齢人口(65歳以上)が増えていく少子高齢化の人口推計となった。
- 一方、恵み野地区と農村地区においては、すべての年代で人口が減少していく人口推計となっており、少子高齢化の先の総人口減少が進行していくと想定される。
- 子どもの遊び場としてだけでなく、高齢世代の健康維持や交流の場として活用してきた公園だが、少子高齢化の先の総人口減少時代を想定した場合、将来的には公園の量よりも公園の質が求められるのでは。

2. 試行・調査の結果報告

②-2 公園ごとの周辺環境調査

■試行・調査の概要

- 恵庭市内の保育園や幼稚園の園外活動において、どの公園をどのように利用しているのか、アンケート・インタビューを通じてその実態を明らかにする。（札幌市立大学へ調査を依頼）

■結果報告

- 現在の公園デザインは、保育施設の利用を想定しているとは言えない状態。
- 公園は多世代・多目的に利用されるものだが、保育施設に近接する公園は、乳幼児の利用に配慮した施設の更新を進めるべきか。
- 特に、広い園庭が無い保育施設では、公園がその役割を担っており、再整備時などには聞き取り検討。

⇒報告内容は別紙

資料3「保育施設の園外活動利用に配慮した公園デザインの検討」を参照

17

2. 試行・調査の結果報告

②-3 利用ルールの緩和

① 恵庭ふるさと公園における市民農園の設置

■試行・調査の概要

- 恵庭ふるさと公園内にある花壇のうち、管理が行き届いていなかった花壇を利用して、サツマイモなどの野菜を栽培。

■結果報告

- R6.5から農園を開設、現在も指定管理者で継続して管理。
- R7.5からは隣接する空き花壇で果樹園を開設。
- 町内会行事をはじめとした公園内のイベントに収穫した野菜を提供。指定管理者と地域の連携強化に寄与。
- 農園の管理作業(植込みや草取り等)に地域の子供たちも協力。体験学習、公園への愛着形成などに繋がっている。
- 管理できずに苦情の種となっていた花壇が、お手本のような管理手法によって変換され、地域の新たな交流の場に生まれ変わった。
- 農園開設後、花壇に対する否定的な意見や要望は0件である。

18

2. 試行・調査の結果報告

②-3 利用ルールの緩和

② あさひ公園における町内会管理のドッグラン設置

■ 試行・調査の概要

- 町内会より、「町内会活動に積極的に参加してくれる新規会員（役員）確保のため、新たな取り組みが必要」として、公園内でイベント的にドッグランを設置したいと要望あり。

■ 結果報告

- 町内会の都合により、令和7年度中の開催ができない状況となった。
- 実施の意向は変わらないため、引き続き次年度以降も前向きに検討を進める。

2. 試行・調査の結果報告

②-3 利用ルールの緩和

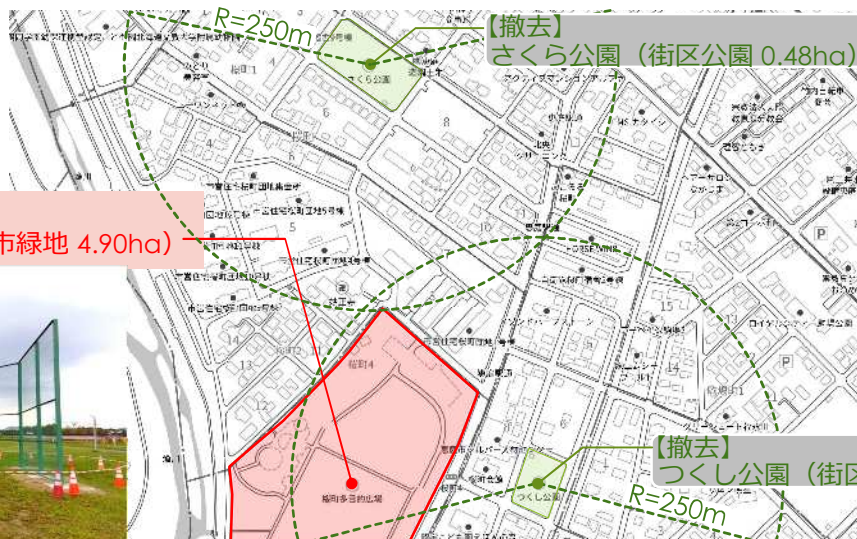
③ 「さくら公園」、「つくし公園」および「桜町多目的広場」におけるボール遊びのルール設定と各公園の役割分担の見直し

■ 試行・調査の概要

- ボール遊びによるトラブルを抱えている街区公園(さくら公園、つくし公園)と、付近にある比較的大きな近隣公園(桜町多目的広場)の役割分担を明確化したうえで、新たなルールを設定する。

【新設】

桜町多目的広場（都市緑地 4.90ha）



2. 試行・調査の結果報告

②-3 利用ルールの緩和

③ 「さくら公園」、「つくし公園」および「桜町多目的広場」におけるボール遊びのルール設定と各公園の役割分担の見直し

■ 結果報告

- さくら公園とつくし公園は、関係町内会と協議のうえ、右記看板のルールを独自に設定。ボール利用を制限する代わりに、付近の桜町多目的広場に新たにバックネットを整備した。(R6.9さくら公園から移設)
- R6.10 バックネットを設置した桜町多目的広場の近隣住民から「ボールが飛んでこないか不安」と相談アリ。丁寧な説明を継続した結果、現在は苦情等なし。
- R7.6 ルール変更後のさくら公園で、軟式ボールを使えるようにしてほしいと新たな要望発生。段階的にルールを緩和することはあっても、断続的に変えてしまうと子どもたちも戸惑うため、しばらくはこのルールで運用したい旨をお伝えし、ご理解いただいている。



2. 試行・調査の結果報告

②-3 利用ルールの緩和

④ 恵庭ふるさと公園および恵み野中央公園におけるバスケットゴールの設置

■試行・調査の概要

- 設置要望の多いバスケットゴールを新たに2公園に設置する。
- これまで夜間利用による騒音やごみ投棄など、課題の多い施設であるため、今回継続的に設置できるよう検証。
- 試験的な設置のため、撤去や移設が容易な移動式タイプのものを採用。



設置した移動式
バスケットゴール➡



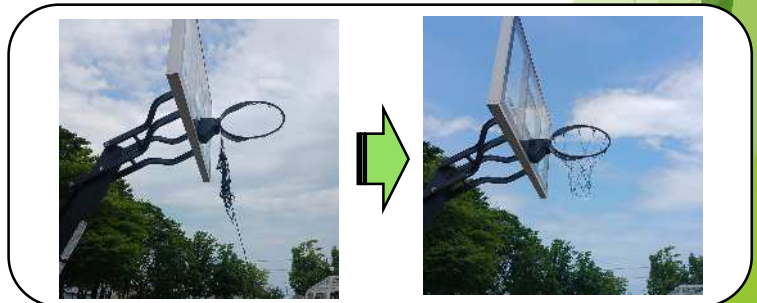
2. 試行・調査の結果報告

②-3 利用ルールの緩和

④ 恵庭ふるさと公園および恵み野中央公園におけるバスケットゴールの設置

■ 結果報告1（恵み野中央公園）

- 恵み野中央公園では、ゴール本体の破損やゴールネットが破られる等が多かった。（故意かどうかは不明）
- R7.7 ゴールネットが破られないように、指定管理者の提案によりチェーンタイプに取替えて経過観察を続けている。
以降、トラブルなし。



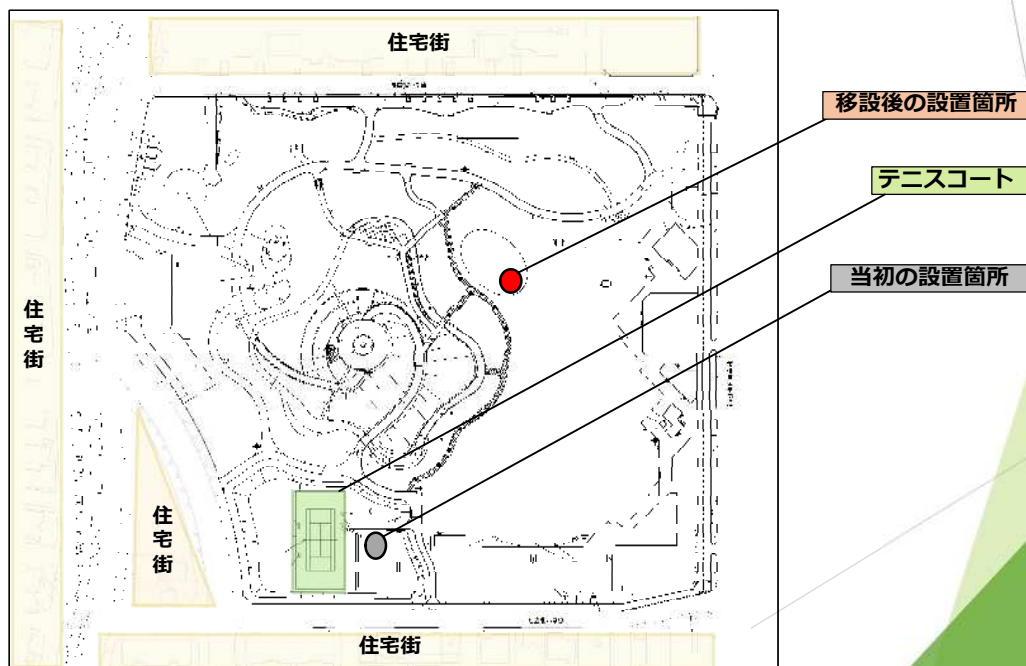
23

2. 試行・調査の結果報告

②-3 利用ルールの緩和

④ 恵庭ふるさと公園および恵み野中央公園におけるバスケットゴールの設置

■ 結果報告2（恵庭ふるさと公園）



24

2. 試行・調査の結果報告

②-3 利用ルールの緩和

④ 恵庭ふるさと公園および恵み野中央公園におけるバスケットゴールの設置

■結果報告3（恵庭ふるさと公園）

- 町内会との協議を踏まえ、当初、道路沿いのスペースに設置したが、隣接するテニスコート等の照明により、夜間のバスケットゴール利用を助長し、夜間利用等の苦情が4軒から合計7回あった。
- 利用時間の遵守、大声で遊ばないなど注意喚起看板の設置や、公園灯の消灯時間を早めるほか、町内会と連携して夜間の見回りを継続したが、改善されなかった。
- 上記トラブルを踏まえ再度町内会と協議し、公園中心部（イベント時に別の目的で頻繁に利用される広場）に移設した。イベント支障やドリブルしにくい等、利用制限は発生するが、止む無しと判断。（R7.7）
- 移設以降は苦情なし。逆に、利用者側から利用時間を長くしてほしい等の要望が出ている。引き続き検討の余地あり。

25

2. 試行・調査の結果報告

②公園利用者ニーズの多様化への対応

- ②-1 公園ごとの人口動態、推計調査
- ②-2 公園ごとの周辺環境調査
- ②-3 モデル公園における利用ルール緩和の試行

■提言に向けた整理

- 公園の周辺環境や使われ方など、公園に求められるが多様化していることが確認できた。
- これまでの画一的な管理ではなく、それぞれの地域ニーズに合った公園を目指していく必要がある。
- まずは“地区ごとに様々な取組みを実験的にやってみること”が重要。
- やってみて得られた情報や経験が蓄積され、地域に即した「あり方」が得られるものだと感じた。
- 想定していたよりもトラブルは少なかった。
- 思い切った試行は進めつつも、関係者への事前調整は抜かりなく行うことが重要。

26

2. 試行・調査の結果報告

検討項目	成 果
① 共 通	<ul style="list-style-type: none"> ・日常データを核にDX化、継続運用が鍵 ・LINE通報は休日時間外に強み有。運用実績も順調に増加
1. 利用者ニーズの変化に対応した公園運営のあり方	
② 公園利用者ニーズの多様化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・画一管理から地域ニーズ対応へ転換 ・小規模パイロットで検証を継続
③ 管理運営の担い手の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ごとに求められる公園像に応じて声を反映 ・企業連携と器具貸出で担い手拡大
2. 誰もが快適に過ごせる公園管理のあり方	
④ 公園における安全・安心の確保 (公園施設管理)	<ul style="list-style-type: none"> ・目を増やし見守り強化、連携循環を拡大 ・デザイン統一は方向転換、現実的継続策へ
⑤ 公園トイレの役割の見直し	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の65%が不快、83%が廃止の検討に理解 ・洋式化と通年開放要請あり、統廃合方針が必要

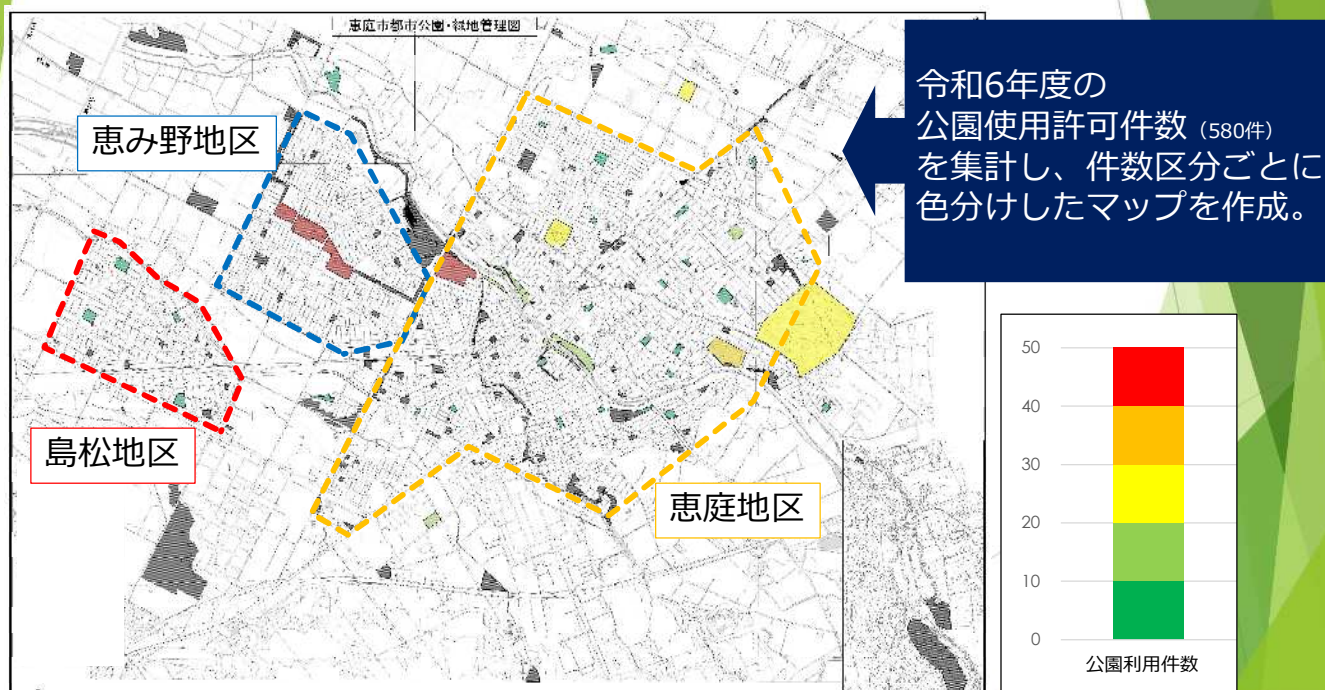
27

2. 試行・調査の結果報告

③-1 地域住民が主体となる組織の活動の現状調査

■ 試行・調査の内容

○公園で実施されている活動を把握し、問題点や課題を整理した上で、今後の活動促進の方策を検討。



28

2. 試行・調査の結果報告

③-1 地域住民が主体となる組織の活動の現状調査

■結果報告

- 地区別で以下のような傾向がみられた。
- 恵み野地区では、町内会やスポーツ活動などは恵み野中央公園のみで実施され、街区公園は通常利用に限られる。
- 島松地区は、大別される島松4ブロックそれぞれの最も大きな公園が頻繁に利用される傾向にある。
- 恵庭地区は、地元の活動の場として公園が使われていないことが多く、管理運営の担い手拡大の観点から、今後は、まず公園を使ってもらい、公園への愛着形成につながる仕掛けが必要。
- 島松・恵み野地区については、現状、利用が活発な公園は積極的に地域の声を取り入れ、公園の管理運営への参画を促すような管理の見せ方を検討する必要あり。
(例：試行調査④-1あさひ公園の樹木管理)

2. 試行・調査の結果報告

③-2 公園管理器具貸出制度の創設

■試行・調査の概要

- 令和6年6月から、公園美化活動助成金を活用した公園の草刈りに取組む団体等を対象に、バッテリー式草刈機2台の貸出しを開始。

※公園美化活動助成金とは、恵庭市公園美化活動助成金交付要綱に基づき、一つの公園について、年3回以上の美化活動を実施している団体等に、39円/㎡を助成する制度



■結果報告

- 令和6年度は2町内会で計3回、令和7年度は制度が浸透し、4町内会で計10回の利用があった。
- 利用者の評価は大変好評。利用団体は年々増加傾向にある。
- 草刈り機の貸出しを前提として、あらたに2町内会(2公園)が公園美化活動助成金を活用した草刈りに新規参入。
- 利用者から要望があった替えバッテリーの不足にも追加購入で対応し、以降はあらたな要望なし。今後も利用者の拡大とニーズの聞取りを継続。

2. 試行・調査の結果報告

③-3 ヒアリング型市場調査の実施

③-4 企業と地域のマッチング

■試行・調査の概要

- 公園の管理運営の担い手として、地元企業の参画の可能性を検討。
- 企業と地域住民が共同で行う公園管理の可能性の検討。

■結果報告1

- 恵庭商工会議所会員企業約1,100社を対象に「公園の管理運営に関するアンケート調査」を実施。（R6.11）
- アンケート回答企業数…15社
- CSR活動に興味関心がある企業…10社
- 町内会と連携した管理運営への参画に興味関心がある企業…5社
- ネーミングライツへの興味関心がある企業…6社
- Park-PFIなど官民連携への興味関心がある企業…3社

2. 試行・調査の結果報告

③-3 ヒアリング型市場調査の実施

③-4 企業と地域のマッチング

■結果報告2

- 公園の管理運営に地元企業が参画する可能性はある。各社の強みを活かした参画の形を提案する必要あり。
- 今後の展開として、まずは積極的な企業と積極的な自治会をマッチングして、サンプルづくりを進めたい。

2. 試行・調査の結果報告

③管理運営の担い手拡大

- ③-1 地域住民が主体となる組織の活動の現状調査
- ③-2 公園管理器具貸出制度創設の検討
- ③-3 サウンディング型市場調査の実施
- ③-4 企業と地域のマッチング

■提言に向けた整理

- 公園を地域の重要な交流の場と捉えているかどうかは、地域ごとに意識が異なる。
- 公園利用が活発な公園については、積極的に地域の声を取り入れ、公園の管理運営への参画を促す公園管理の見せ方を検討する必要がある。（例：試行調査④-1あさひ公園の樹木管理）
- 器具の貸出しは利用者の評価も大変高く、今後も積極的に推進していく。
- 公園の管理運営の担い手として、興味を示していただいている企業と継続した協議を実施し、他の地域のモデルとなる活動のベースを作り、連鎖的な取組みにつながる仕掛けをつくる。

33

2. 試行・調査の結果報告

検討項目

①共 通

1. 利用者ニーズの変化に
対応した公園運営のあり方

②公園利用者ニーズ の多様化への対応

③管理運営の 担い手の拡大

2. 誰もが快適に過ごせる
公園管理のあり方

④公園における 安全・安心の確保 (公園施設管理)

⑤公園トイレの 役割の見直し

成 果

- ・日常データを核にDX化、継続運用が鍵
- ・LINE通報は休日時間外に強み有。運用実績も順調に増加

- ・画一管理から地域ニーズ対応へ転換
- ・小規模パイロットで検証を継続

- ・地域ごとに求められる公園像に応じて声を反映
- ・企業連携と器具貸出で担い手拡大

- ・目を増やし見守り強化、連携循環を拡大
- ・デザイン統一は方向転換、現実的継続策へ

- ・利用者の65%が不快、83%が廃止の検討に理解
- ・洋式化と通年開放要請あり、統廃合方針が必要

34

2. 試行・調査の結果報告

④-1 地域と取組む公園樹管理の試行

■試行・調査の概要

- 環境緑地保護地区(北海道)に指定されるあさひ公園は、これまで貴重な自然を保全するという名目で、樹木に手を入れることが少なかった。
- その結果、クマ笹や樹木が繁茂し、公園としての利用は遊具エリアのみとなっており、防犯面の不安、園内に残る枯損木や道路へ越境した大木など安全面での問題も多かった。
- 本調査は、地域と共同で取り組む公園樹管理の試行である。



35

2. 試行・調査の結果報告

④-1 地域と取組む公園樹管理の試行

■結果報告1

- 地元町内会と連携した公園樹管理。（時系列）

R6.7	・町内会、樹木医（黒崎委員）、指定管理者、恵庭市の4者であさひ公園の現地踏査を実施。現状や課題を共有。
R6.8～10	・課題解決のため、町内会は、笹が繁茂して手が付けられなくなっていた林内の平地部分の笹刈りを市の“草刈り助成金”を活用して定期的に実施。 ・市と指定管理者は、斜面の除草や伐採作業などを実施。（8名体制で計3日間の作業）
R6.11	・町内会で秋の落ち葉清掃を実施。
R6.11	・落ち葉処理について協議、バイオネストの試行決定。市で公園内にバイオネスト設置。
R7.4	・町内会で春の落ち葉清掃を実施。すべての落ち葉をバイオネストへ。
R7.9	・現状の共有と今後の展望を協議するため、町内会、樹木医（黒崎委員）、指定管理者、恵庭市の4者であさひ公園を再度現地踏査。 【町内会の意見】見違えるほど良い公園に。防犯面・安全面の不安も解消。もっと使いたい。 【町内会からの追加要望】道路沿いの大木2本の除去、一部園路の根上り、つる形植物の除去、新たな枯損木の除去、ベンチ等の設置。（⇒町内会では対応できない作業）
R7.10	・さらなる魅力向上に向け、町内会からの要望事項について、市と指定管理者ですべて対応。

36

2. 試行・調査の結果報告

④-1 地域と取組む公園樹管理の試行 ■結果報告2



2. 試行・調査の結果報告

④-1 地域と取組む公園樹管理の試行 ■結果報告3

- 本試行をととして町内会との連携が深まり、密に連絡を取りながら、発展的な話ができる関係性が構築された。
- 笹刈り、低木の日常的な管理、落ち葉清掃など、町内会が自発的に公園管理に関わりたいと思える状況が作られた。
- あさひ公園の取組みは1つのモデルとして、他の公園にも水平展開できる可能性を秘めている。
- 公園が綺麗になり使いやすくなったことで、子どもたちが公園内の折れ枝などを集めて秘密基地を作っていた。
町内会によれば、これまで秘密基地が作られたことはなかったとのこと。
新しい公園の使われ方が生まれ、
良い循環が形成されている。

R7.9.24 秘密基地の様子➡



2. 試行・調査の結果報告

④-2 アプリによる公園樹管理の試行

■試行・調査の概要

- アプリ等の電子媒体を活用した公園樹管理について、他市町村で実施している取組事例を調査。

■結果報告

(事例1)三保まつしらべ(静岡市)・・・スマホアプリから、目の前のマツの情報(太さや高さ)を調べたり、自分でお気に入りのマツを登録したり、マツの異変を通報することができる。

(事例2)公園樹診断システム(公園マネジメント研究所)・・・スマホなどで公園の樹木点検診断を効率化するシステム。国交省の指針に準拠。

- 現時点で本格運用されているものは少ないことや、恵庭市で実運用を検討できるようなものは無かった。
- しかし、AI技術が急速に進歩し、アプリ開発に伴う実証事業の報告が増加傾向にあるため、今後も動向を注視。

2. 試行・調査の結果報告

④-3 みどりのステーション制度

■試行・調査の概要

- バイオネストを利用した(仮称)みどりのステーション制度の試行を検討。

■結果報告

- R6.11 あさひ公園にバイオネストを設置。(市作業)
- R7.4 町内会が実施する落ち葉清掃で、試験的に集めた枝葉をバイオネストに集積。
- R7.9 バイオネストの中の枝葉の体積が減っていることを確認。
- 堆肥化を目的とした場合、定期的にかき混ぜる必要があるが、町内会との協議の結果、町内会にそこまでの体力は無いため、混ぜる作業は困難であるとの回答があった。
- 混ぜる作業をしない場合でも体積を減せることが確認できたため、公園で発生した落ち葉を公園内で処理(減量化)するというサイクルが、持続可能な公園管理として効果的であるといえるのでは。

2. 試行・調査の結果報告

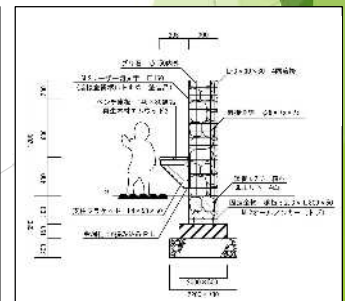
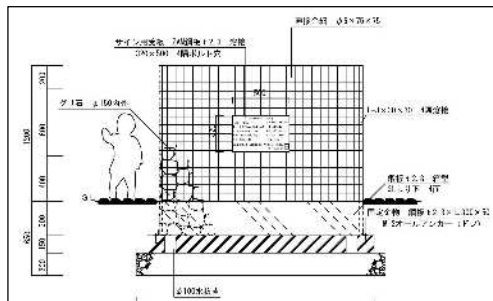
④-4 モデル公園におけるデザイン統一

■試行・調査の概要

- 園名板や注意喚起看板は、整備された年代によりデザインや形状、材質などが様々である。これらのデザインを統一することで公園利用者に安心感を与えることができるのかを検証する。

■結果報告1

- R6.7 札幌市立大学の協力のもと、6つの園名板デザイン案を作成。
- R6.8 デザイン案6つの中から、市民アンケート調査で実際に設置するデザインを決定。
- R7.11 決定したデザインの園名板を設置予定。（下記参照）



41

2. 試行・調査の結果報告

④-4 モデル公園におけるデザイン統一

■結果報告2

- デザイン、形状、材質などを総合的に考えてもらうことで、より一層安心感を与えられる園名板を作成できると考え、あえて学生さんには条件など付せず、自由な発想で設計していただいたが、どのデザインも高価なものとなってしまった。
 - 総合的なデザインの統一による安心感の付与は、財政的に持続的な取り組みとすることが困難であることがわかった。
 - 今後は、汎用性が高く、安価で、耐久性の高い材料を使った園名板をベースに、色や書体、簡易的なデザインでの統一化を検証する。
- (案)アルミ製押出型材に市ゆるキャラのワンポイント程度などを進めていくべきか。



42

2. 試行・調査の結果報告

④-5 SDGsやグリーンインフラへの対応

①腐葉土配布事業

■試行・調査の概要

- 都市公園における既存の取組みとSDGsやグリーンインフラとの関係を整理する。

■結果報告①

- 公園から発生した落ち葉を指定管理者で収集・堆積し、腐葉土を作る。
- 令和6年度より、恵庭ふるさと公園の市民農園や町内会管理の一部の公園花壇で試験的に腐葉土を使用し、今後の事業拡大についても指定管理者で検討を継続。



43

2. 試行・調査の結果報告

④-5 SDGsやグリーンインフラへの対応

②剪定枝等配布事業

■結果報告②

- 公園樹や街路樹の剪定伐採木市民還元をR6から2年連続で実施。
- 対象は、市内在住、自ら積み込み・運搬ができる人。
- 1年目はチェーンソーの使用を不可としたが、参加者アンケートより、チェーンソー使用の強い要望があったため、一定のルールを設け、2年目はチェーンソー可とした。(事故等トラブルなく好評)
※長物を持って帰っても切断時に騒音で近隣に迷惑となるため。
- 1年目は22組、2年目は33組に配布。
- 参加者の満足度の高さから、今後も継続的な事業となるように調整したい。



44

2. 試行・調査の結果報告

④-5 SDGsやグリーンインフラへの対応

③ゼロカーボンシティの実現

■結果報告③

- 公園施設の電気契約を見直し、脱炭素社会の実現に繋げる取組み。
- 公衆用街路灯A・B、定額電灯、融雪用電力Lおよび従量電灯Aについては、北海道電力以外に同様の料金メニューを提供している電力会社無し【211契約】
- 従量電灯B・C、エネとくプラン（従量電灯B相当）および低圧電力については、複数の電力会社が供給可能であることから、価格や価格変動リスクなどを考慮して検討を進め、令和7年4月より電力供給会社を変更した。【23契約】
⇒ 年間約50t程度のCO2排出量削減を達成。
- 公園照明灯については、令和4年度に全灯LED化(リース事業)を行っており、年間100t程度のCO2排出量を削減している。

45

2. 試行・調査の結果報告

④公園における安全・安心の確保 (公園施設管理)

■提言に向けた整理

- 公園における「安全・安心」は、いかに公園に関わる人を増やすか（目を増やし、見守る）が重要。
- あさひ公園における取組みは、市と指定管理者がきっかけをすることで、連鎖的に町内会が反応し、信頼関係が生まれ、さらに市と指定管理者が反応するというサイクルが構築され、今後は周辺の学校なども加わる可能性もあり、さらなる拡大が見込まれる。
- DX化が急速に進む中、最先端の技術をすぐに取り入れられるように常にアンテナを張り動向を注視する必要あり。
- 園名板のデザイン統一による安心感付与については、施工費の問題等より方向転換する必要あり。今後は現実的に持続可能な取組みで検討を進めたい。

- ④-1 地域と取組む公園樹管理の試行
- ④-2 アプリによる公園樹管理の試行
- ④-3 みどりのステーション制度
- ④-4 モデル公園におけるデザイン統一
- ④-5 SDGsやグリーンインフラへの対応

46

2. 試行・調査の結果報告

検討項目

① 共通

1. 利用者ニーズの変化に
対応した公園運営のあり方

② 公園利用者ニーズ の多様化への対応

③ 管理運営の 担い手の拡大

2. 誰もが快適に過ごせる
公園管理のあり方

④ 公園における 安全・安心の確保 (公園施設管理)

⑤ 公園トイレの 役割の見直し

成 果

- ・日常データを核にDX化、継続運用が鍵
- ・LINE通報は休日時間外に強み有。運用実績も順調に増加

- ・画一管理から地域ニーズ対応へ転換
- ・小規模パイロットで検証を継続

- ・地域ごとに求められる公園像に応じて声を反映
- ・企業連携と器具貸出で担い手拡大

- ・目を増やし見守り強化、連携循環を拡大
- ・デザイン統一は方向転換、現実的継続策へ

- ・利用者の65%が不快、83%が廃止の検討に理解
- ・洋式化と通年開放要請あり、統廃合方針が必要

47

2. 試行・調査の結果報告

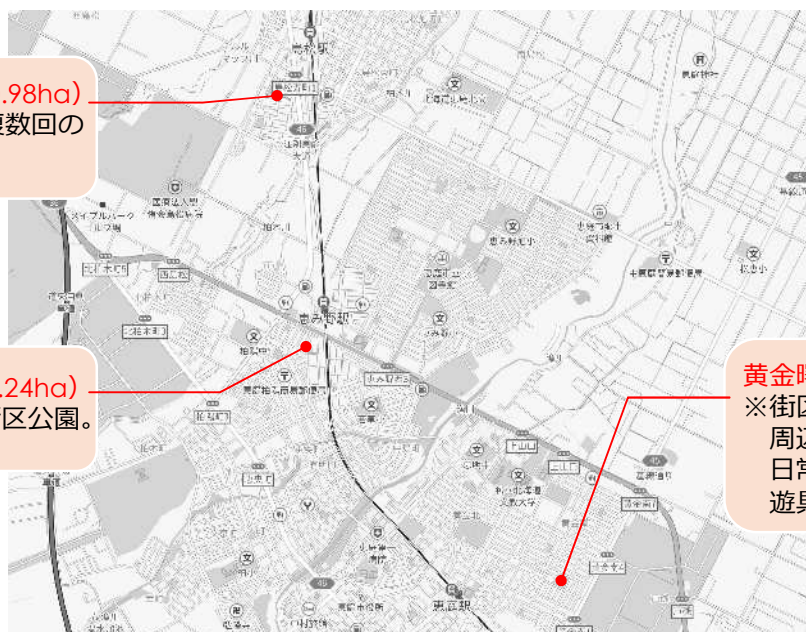
⑤-1 公園トイレの利用実態調査

■ 試行・調査の概要

- 公園トイレの利用者数を調査し、今後のトイレのあり方検討に活用する。

しままつ公園（街区公園 0.98ha）
※少年野球クラブが週に複数回の
継続的な使用あり。

どんぐり公園（街区公園 0.24ha）
※住宅地にある一般的な街区公園。



黄金曙公園（近隣公園 1.00ha）
※街区公園と近隣公園の比較用。
周辺に子育て世代が多く、
日常的に利用者が多い。
遊具が充実。

48

2. 試行・調査の結果報告

⑤-1 公園トイレの利用実態調査

■結果報告

- 調査期間…6/14,7/13,7/27,7/30,8/15,8/17,8/29,9/7の計8日
- 調査時間…午前6:00～午後5:00（11h）
- 調査内容…公園トイレを利用した人数の計測
- 調査結果（公園トイレ利用者数）
 - ・どんぐり公園 3.4人/日（公園利用者 0人/日、公園外利用者3.4人/日）
 - ・しままつ公園 10.4人/日（公園利用者 4.9人/日、公園外利用者5.5人/日）
 - ・黄金曙公園 24.3人/日（公園利用者16.5人/日、公園外利用者7.8人/日）

2. 試行・調査の結果報告

⑤-2 公園トイレ改修効果の検証

■試行・調査の概要

- 令和5年度に一部改修を実施した2公園（花の丘・1かぼち公園）のトイレについて、改修効果に関するアンケート調査を実施。

■結果報告

- 回答数は1件のみ。
⇒個室の壁面上部に開口部があり、頭上から盗撮カメラ等の挿入を可能にしてる。金網等で閉鎖しないと、女性の方は壁1枚隔てて男性が用を足しているので、不安感もあるのでは。
- “⑤-1 公園トイレの利用実態調査”の調査より、実態として街区公園のトイレはほとんど利用されていないため、アンケートの回答数も集まらなかったと思慮。
- 周辺町内会からは、トイレの部分改修に好意的な声を頂いているが今後は公園トイレ全体の方向性を考える必要性がある。

2. 試行・調査の結果報告

⑤-3 公園トイレの必要性に関するアンケート調査

■試行・調査の概要

- 公園トイレの利用に関するwebアンケート調査を実施。

資料4「公園トイレの利用に関するアンケート調査【結果報告】」を参照

■結果報告1

- 実施期間：令和6年8月1日～令和6年9月6日
- 回答者数：267人（男性173人、女性89人、未回答5人）



- 56%が過去1年間で公園トイレを利用したことが無い。
- 公園トイレの利用頻度は、1年に1回程度が36%で最多、3か月に1回程度が33%で2番目に多い。
- 23%が公園利用時以外に公園トイレを利用。

51

2. 試行・調査の結果報告

⑤-3 公園トイレの必要性に関するアンケート調査

■結果報告2

- 公園トイレ利用者の65%が不快だと感じている。



- 不快、利用したくない理由は、衛生面（汚い、臭い、虫がいる）が圧倒的に多く、次いで備品の不備、和式であること等が続く。



52

2. 試行・調査の結果報告

⑤-3 公園トイレの必要性に関するアンケート調査

■結果報告3

- 今後の公園トイレのあり方については、「廃止してよい」が19%、「存廃する公園を選択し、残す公園は順次更新してほしい」が64%を占める。

Q.限られた予算の中で、快適な公園トイレを皆様に提供するためには、利用が少ない公園トイレの廃止を検討する必要があると考えています。
皆様のご意見をお聞かせください。



- 廃止して良いと思う
- 大規模な公園や地域のお祭りが開催される公園など、公園トイレを存続する公園とそれ以外の公園トイレを廃止する公園を選択し、残す公園は順次更新してほしい
- 今のまま全ての公園トイレを存続すべきだと思う
- その他

- 大半が廃止・施設更新を望んでいる。
- アンケート結果を踏まえ、今後、公園トイレの存廃と更新すべきトイレの抽出等、検討を進めるべきか。

2. 試行・調査の結果報告

⑤-4 一時避難所のトイレの必要性検証

■試行・調査の概要

- 一時避難所（公園）におけるトイレ整備の考え方について、近隣市にヒアリング調査を実施。

【参考】一時避難所・・・火災が延焼拡大し危険が迫っている場合、又はこれに準ずる事態が発生した場合等に避難者が一時的に避難する小中学校のグラウンドや、公園などとし、原則として給食等は行わないものとする。
なお、1人当たりの必要面積は2㎡（公園は3.5㎡）を基準として設定するものである。
ただし、積雪期に一時避難所が使用に適さない状態にある場合、近くの収容避難所及び収容避難所敷地を使用することとする。
＜恵庭市地域防災計画（一般災害対策編）令和6年3月 恵庭市防災会議＞

■結果報告1

- 札幌市、千歳市、北広島市、江別市の4市にヒアリング調査を実施したが、いずれの自治体も一時避難所の指定条件にトイレ設置の有無が考慮されていない。
- 災害時のトイレ機能の必要性について調査。
⇒令和6年能登半島地震では、過去の震災と同様にトイレ問題が発生している
- 一時避難所に指定されている公園トイレ耐震基準を調査。
⇒一時避難所に指定されている公園トイレ・・・71箇所
うち旧耐震基準（昭和56年以前）の公園トイレ・・・15箇所

2. 試行・調査の結果報告

⑤-4 一時避難所のトイレの必要性検証

■結果報告2

- 地域防災計画における公園の一時避難所指定を理由として、公園トイレの存続を決定する必要は無い。
- 一時避難所に指定されている公園のうち、旧耐震基準で設計・整備されたトイレは、優先的に更新あるいは廃止を検討する必要がある。
- 「⑤-3 公園トイレの必要性に関するアンケート調査」の結果から、すべての公園トイレを更新するのではなく、地域の活動の中心的な役割を担っている公園に限定して更新を進めることを検討する。
- 更新するトイレについては、災害時の使用を想定した便槽の整備や、防災倉庫の役割も付加するなど、複合的な用途での使用も検討する必要がある。

2. 試行・調査の結果報告

⑤-5 ネーミングライツに関する調査

■試行・調査の概要

- 他自治体で取組まれているネーミングライツ（公園の「新名称」を付ける権利）について調査を行う。
- ネーミングライツ導入の可能性について聞き取り調査。

■結果報告1

- ネーミングライツを導入し積極的に取り組んでいる室蘭市へ聞き取り調査を実施。
- R6.5時点で、19施設でネーミングライツ契約を締結。
うち都市公園は、屋外体育施設も含めて12施設。
- ネーミングライツ料の目安となる額は、他都市の状況や各施設の運営管理に要する費用などを勘案して、下記のとおり概ね3つの区分でネーミングライツ料を設定。
 - ・文化ホールなどの大規模施設：1,100,000円/年（税込み）
 - ・美術館などの中規模施設：550,000円/年（税込み）
 - ・街区公園などの小規模施設：110,000円/年（税込み）

2. 試行・調査の結果報告

⑤-5 ネーミングライツに関する調査

■結果報告2

- 金銭の提供に代え、役務の提供（公園の草刈り、備品の修繕等）による提案も可能としており、ネーミングライツ料の支払いに加えて、年数回の草刈りを実施するケースが多い。
- 導入による効果
 - ・全体で年間1,100万円（公園以外も含む）ほどの歳入がある。
 - ・ネーミングライツ契約を締結した企業が、自発的に定期的なパトロールを実施するなど、公園への関心・愛着が増している。
 - ・公園利用者にも愛称が定着しつつあり、概ね好評である。
 - ・企業側のメリット
 - ⇒①公園の場合、PR効果よりも、社会貢献という色合いが強い。
 - ②園名板や市HPなどを通じた企業名などの情報発信。
 - ③地元の老舗洋菓子店が、店舗から離れた保育園前の公園のネーミングライツ契約を締結するなど、公園利用者層へのPRを目的とした応募も一部みられる。

57

2. 試行・調査の結果報告

⑤-5 ネーミングライツに関する調査

■結果報告3

- 恵庭商工会議所会員企業約1,100社を対象に実施した「公園の管理運営に関するアンケート調査」内でネーミングライツへの興味関心についての意向を確認。
- アンケート回答企業数15社に対し、ネーミングライツへの興味関心がある企業は6社。
- 今後は、6社に対して個別にヒアリングを行い、実現に向けて各社の強みを活かすことができるような条件提案を行う。

58

2. 試行・調査の結果報告

(補足調査) 近隣市のトイレ設置状況等の確認

■ 試行・調査の概要

- 恵庭市および近隣市（千歳市、江別市、北広島市）のトイレ設置割合等について調査。

■ 結果報告

- 近隣市と比べても、恵庭市のトイレ設置率は比較的高いといえる。

自治体名	恵庭市	率	千歳市	率	江別市	率	北広島市	率
公園総数	161	-	209	-	232	-	245	-
トイレの設置された公園数	90	55.9%	168	80.4%	64	27.6%	25	10.2%
そのうち、洋式化された公園数	14	15.6%	126	75.0%	19	29.7%	24	96.0%
冬期開放している公園数	5	5.6%	14	8.3%	2	3.1%	0	0.0%

2. 試行・調査の結果報告

⑤公園トイレの役割の見直し

- ⑤-1 公園トイレの利用実態調査
- ⑤-2 公園トイレの改修効果の検証
- ⑤-3 公園トイレの必要性に関するアンケート調査
- ⑤-4 一時避難所のトイレの必要性検証
- ⑤-5 ネーミングライツに関する調査

■ 提言に向けた整理

- 現状の管理について、利用者の65%が不快であると感じている。
- 市民の83%が公園トイレの廃止・存廃に理解を示している。
- 議会からも便器の洋式化、拠点公園の通年開放が求められている。
- 上記を踏まえ、安心・安全で清潔なトイレを維持するため、統廃合を含めた公園トイレの全体的な方針を示す必要がある。

3. 今後のスケジュール

